

学年：3年	単元名：7. 暗算 一数をよく見て暗算で計算しよう
-------	------------------------------

1. 単元目標：(全2時間)

○2位数どうしの加減法の暗算について理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して暗算の仕方を考える力を養うとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。

考判表・暗算のよさを考える。
・計算の工夫を考える。

知・技・被減数が100の減法の暗算、2位数どうしの加減法を暗算で計算することができる。
・数の構成や加減法に関して成り立つ性質に着目して、暗算の仕方について理解する。

2. 指導内容

- ・被減数が100の減法の暗算
- ・2位数どうしの加減計算の暗算

3. 指導のポイント

○暗算の仕方の指導。

- ・位の高いほうから計算する。
- ・視暗算より聴暗算を推奨する。
- ・ $24+54$ の場合(聴暗算)

「24たす」	←ここで止めて2～5秒待つ。	この時、子どもは、頭の中で「24」を自分なりにイメージする。
「ごじゅう」	←ここで止めて2～5秒待つ。	この時、子どもは、頭の中で「74」をつくる。
「し」(よん)		この時、子どもは、頭の中で「74+4」をする。

○暗算のよさ

- ・実生活の中で活用する場面が多い。
- ・「見当付け」や「見積もり」の時、便利である。
- ・筆算をするとき「見当付け」をすると大きなまちがいを防ぐことができる。

※「筆算ができれば暗算は特に必要ない」と思っている子供(大人)がいるかもしれない。

しかし、暗算の力を付けることは、数の大きさに対する直感力、演算に対する直感力、さらには問題解決の際の見通す力・思考力にまで影響を及ぼし、これからの算数学習に大きな力となることを、折に触れ、子供たちに伝えたい。

○教科書は「計算の工夫」ととらえているが、数値によって色々工夫が違うので、混乱しないように注意する必要がある。

○まずは、暗算の仕方の基本をしっかりと習得させる。それができた上で、数値の大きさに応じて工夫できるのが望ましいと考える。特に、数の念頭操作に慣れていない子供に最初から「工夫」を強調すると、暗算の力が定着するより「いろいろな方法がある。何でもいいんだ。」ということだけが頭に残ってしまう事も考えられるので、注意を要する。

○子どもたちの頭の中のイメージは、数字であると考えられる。ブロックを思い浮かべる子どもは、少ないであろう。

たし算	繰り上がりなし	ひき算	繰り下がりなし
	繰り上がりあり		繰り下がりあり

○活動例

※暗算バトル

- 4つの班に分け、班対抗でゲームをする。
- 各班出場順を決め、1人ずつ黒板の前に出て、計算スピードを競う。
- 1位のみが得点する。暗算で1位→2点 電卓で1位→1点
- 16点獲得した班が優勝。
- 1時間に2試合ぐらいできる。
- 出場順を変えれば、優勝チームは、変わる可能性が大きい。

※WBを使って計算

35+24の場合

- | |
|---|
| ①「35たす」というと
35 とかく |
| ②「20」というと
5（繰り上がらない場合） 6（繰り上がる場合） とかく。 |
| ③「4」というと
5のあとに9とかく |

4. 指導にあたって

- ①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。
○暗算のよさや活用場面を考えさせる。
- ②それを通してどんな子どもに育てたいか。
○生活の中に活かそうとする子ども。

5. 学習展開

第1・2時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○2けたのたし算・ひき算の暗算を知ろう。（P80/81）

- 暗算の仕方を教える。
 - 暗算は、位の高い方から計算するというのを原則とする。
- P81①
- 習熟をはかる。